

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-61

学校名・団体名	刈谷市立小垣江東小学校
HPアドレス	<a href="http://www.city.kariya.aichi.jp/school/ogahigas/toppage.html">http://www.city.kariya.aichi.jp/school/ogahigas/toppage.html</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	緑と地域の教育力を活かした命の教育
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、刈谷市の南部に位置する開校28年目の学校である。自然環境に恵まれない中で開校した本校は、豊かな心を育むためには豊かな自然環境が必要だと考え、「ふるさとの森 東小里山」構想を立て、取り組んできた。現在、8,000本を超える樹木が生い茂る森ができ、子どもたちはもとより、地域の方々の憩いの場所にもなっている。さらに緑化だけにとどまらず、自然や生き物とのふれあいの中で感動する心、生き物を大切にする心、命を大切にする心を育てるべく「愛 Love プロジェクト」に取り組んできた。子どもたちはしだいに地域の環境、地球環境に目を向けて活動を進めるようになってきている。</p> <p>また、本年度の研究主題を「見つけた課題を共に解決し、学んだことを発信できる児童の育成～アクティブラーニングの実践を通して～」とし、授業実践を進めることになった。そこで、下記の2点について、学校及び各学年の創意ある取り組みやこれまでの活動を発展させる活動を実践してテーマに迫っていききたい。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) みどりに親しみ、みどりに学ぶ活動を継続していく。</li><li>(2) 自然や生き物・地域とふれあう中で、命の大切さに気付く。</li></ol>	

## 1 活動内容

### (1) みどりに親しみ、みどりに学ぶ活動

#### ① マイツリー活動 (全学年：春夏秋冬)

何もなかった校庭の一角に山を築き、子どもたちがドングリから育てた苗を含めて、平成8年から毎年植樹した木々が大きく育っている。それぞれの山には「ドングリ山」「くらし山」「フルーツ山」「小垣江新山」と子どもたちの手で名前がつけられた。

今年度はこの山の入口に新しく看板を作成し、付け替え、明るい雰囲気になった。子どもたちはこの森が大好きで、夢中になって探検したり、昆虫や木の実集めに熱中したりしている。

みどりをつくる活動とともに、そのみどりと親しんだり、みどりから学んだりする活動も行われた。今年度も「マイツリー活動」を行った。マイツリー活動というのは、入学と同時に自分の木を決め、6年間観察を続け、木の生長を見守るという活動である。子どもたちはマイツリーを自分の家族・分身と受け止めるようになっており、愛着をもって見守ることができた。



#### ② 一人一鉢 (全学年：春、秋)・「だいすきな花、ぐんぐんそだて」(1年：4月~7月)

季節の草花を育てる「一人一鉢」活動。学務員の用意した苗を春と秋に子どもたちの鉢に植えて、ハナミズキ街道に並べた。毎朝登校すると、ランドセルのまま水やりなどの世話をする子どもたちの姿があった。

1年生は一人一鉢を4種類の花から選び、学区の花の先生(農家の方たち)に協力してもらいながら世話をする活動を行った。それぞれ異なる植物を種から育てる活動を通して、それぞれの植物の葉や花の特長や成長の違いにも目を向け、互いに比較しながら植物を大切に育てることの喜びを実感することができた。地域の方々と主体的にかかわりながら活動する中で、多くの人に支えられていることに感謝する気持ちをもつことができた。



#### ③ 「切り干し大根農家の秘密をさぐれ」(3年：1月~3月)

3年生は、地元刈谷の特産物である切り干し大根農家の見学に行き、多くの工夫があることに気付いた。大根を育てるのに適した土壌や、うまく乾燥させるための伊吹おろしが吹くことなど、風土が適しているのはもちろんのこと、大量の大根を瞬時に千切りにする機械や干す台にも工夫が凝らしてあることを知った。そこで、自分たちにも切り干し大根作りができるのではないかと考え、大根を削り、手作りの乾燥台で乾燥させ、挑戦した。予想以上に質の良い切り干し大根が大量にできた。実際に自分たちで作ることによって、刈谷の気候が切り干し大根作りに適していることを実感することができた。



### (2) 命の大切さに気付く自然や生き物・地域とのふれあい

#### ① 「産直をひらこう」(2年生：9月~12月)

1学期に育てた夏野菜を「家族と食べたらおいしかったから、今度はもっとたくさんの人に食べてもらいたい」と、秋野菜を育てて産直を開催することにした2年生。おいしい野菜を育てるにはどうすればよいか調べたり、多くの人に買ってもらうために必要なことを子どもたちが考えたり、それらを主体的に実行することができた。地域の産直センターへ何度も足を運んで教えてもらったので、産直センターの人たちに対して感謝の心を持つことができ、その気持ちを自ら伝えることができた。



#### ② 「ひとつの命を大切にしよう~ホテル活動を通して小垣江の自然について考えよう~」(3年生：4月~3月)

本校の伝統となっているホテルの飼育活動。4年生から引き継いだホテルの幼虫を学校内の川に放流し、さなぎ、成虫へと見守る。その成虫の卵から孵った幼虫を1年間世話をし育てる活動を今年も行った。命のリレーとでもいふべき、ホテルの飼育活動を通して、命や自然環境を大切にする気持ちを持ち、個人個人の意識を高め、自分にできることを考えるようになった。また、ホテルの飼育活動には、地域の人々の助けがあって成り立っていることを実感し、感謝の気持ちを持って取り組むことができた。



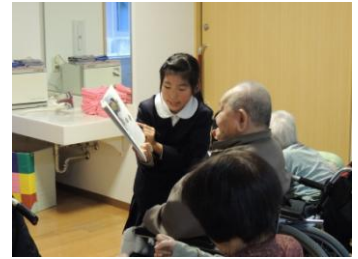
### ③ 「育てよう！ぼくらの子牛～命を見つめて、感謝の心を育む総合的な学習～」（4年生：5月～12月）

学区にある牧場から約2か月間子牛を預かり、毎日朝夕2回、えさやり、糞の片付け、ブラッシングなどの世話をを行った。この活動を行う中で、「未明（子牛の名前）が成長してうんちの量が増え、責任を感じる」と感想をもち、世話を続けることの大切さと大変さを感じ、命を預かることへの責任感について考えた4年生。命に対する思いや考えを伝え合ったり、世話をする中でコミュニケーションを図ったりして、友達との関わりを深めることができた。「未明はかわいいけど、最後は食肉になってしまうのだから、食べ物に感謝しなければならない」と、子牛が将来、食肉になってしまうことについて考えた。命をいただいて人間は生きていることを知り、食べ物に感謝する気持ちを育むことができた。



### ④ 「共に生きる～お年寄りとかかわり、自他の命について学ぶ学習～」（5年生：9月～12月）

5年生は、学校の目の前にある老人福祉施設「シルバーピアかりや」の方との交流活動を行った。最初はお年寄りとの接し方にとまどっていたが、活動の振り返りやロールプレイングを行うことで、お年寄りに楽しんでもらうにはどうしたらよいかを考えることができた。お年寄りのために何ができるのか、お年寄りの方と交流するためには何に気をつけなければいけないのかを考え、実際に何度も交流した。そこで、福祉について真剣に考え、自分たちのできることに気が付き、実践していった。さらに、他者を尊敬し、思いやりをもって接することの大切さに気付いた5年生は、お年寄りとの交流を通して、自分や他人の命についても考えることができた。



### ⑤ 「温かい思いやりの心を育もう」～幼い命と関わり、自他の命を学ぶ幼児学習～（6年生：4月～3月）

本校の特色の一つである「ふれあい活動」は、学年を越えた縦割りチームを作り、清掃や遠足、運動会などさまざまな活動に取り組む活動である。高学年は、同じチームの下学年をまとめるために、どのような言葉がけや行動が適切であるか考えたり、チームに貢献できることを考え実行したりする。低学年は高学年に見守られ支えられ、自尊感情を育てていく活動である。



今年度も、4月に新一年生が入学すると、毎朝、6年生のボランティアが教室へ行き、朝の支度の手伝い、トイレへの引率や、一緒に遊ぶなど、学校に早く慣れるよう手助けを行った。6年生と1年生のペアが決まると、長放課にも一緒に遊んだり、遠足も一緒に行き、行動を共にしたりして、小さい子への話しかけ方や気をつけることを考えながら、実践していった。12月には学区内にある幼稚園へ行き、幼稚園の先生の接し方や幼児の特性を幼児と関わる活動を通して、学んだ。また、併せて思いやりの心をもって人と関わる態度や自分の成長をも振り返り、家族に見守られながら育ったことを自覚・感謝し、自分自身の肯定感を育むことができた。

## 2 成果

緑化保全から発展させ、自然や生き物・地域とふれあう中で、命に目を向かせながら感動する心を育てる環境教育活動を展開していった。植物→昆虫→動物→人間・地域という軸を考え、6年間の積み重ねの中で、子どもたちは命の大切さに気付き、周りの人に対する思いやりの心を育むことができた。これは、長いスパンの中で取り組むことで子どもたちの心に深く根付いた思いやりになると考えている。

### （1）みどりを愛し、愛校心を育てる子ども

「ぼくが小垣江東小学校に入ってきて、まず良かったと思うことは、この学校が自然に満ちあふれていたことでした」これは、今年度の卒業文集にある子が書いたものである。マイツリーのことや小垣江三山で遊んだ思い出を書いている子は他にもいて、彼らにとって6年間続けてきたこれらの活動は、身近な、それでいて、心に残る大切な思い出だったに違いない。そして、みどり豊かなこの学校を誇りに思っている児童が多いことがわかった。

### （2）多くの人との関わりに感謝して、自他のいのちを大切にできる子ども

今年度の活動は、地域の人やものに関わる活動が多かった。ホタルや牛の世話では、地域の助けなくしては成り立たない。お花の先生や産直のお店の方、さらに、老人福祉施設や幼稚園への訪問では、多くの地域の方と関わった。このように、異年齢集団や地域の人々など、多くの対象とねらいをもって関わらせることで、支えられて生きていることを実感させることができた。さらに、いのちを預かることの大変さやいのちを世話することの喜びを感じ、自他の命について考え、大切にしようという気持ちをもつことができた。